

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

うっかり冗談を言うと、「冗談も休み休み言え」と叱られることがある。冗談もいいが、そののべつまくなしに言うべきでない、ということだろう。これと同様に、「マジメも休み休み言え」と言えそうな気がする。

ともかくマジメだが、何となく人に嫌われたり、うとんじられたりする人がある。言うこともすることもマジメで、その人の話を聞いていると、「なるほどもつとも①至極」というわけで反論の余地がない。もつともだと思いつつ、しかし、心のなかで妙な反発心がわいてきたり、不愉快になったりしてくる。そこで何とか言ってみたいと思うものの、相手の方が何しろマジメで②の打ちどころがないものだから、それに従うことになる。ただ、そのときに残った心のもやもやがたまってくるためもあってか、そのマジメな人を何となくうとんじてしまう。ここでその人が手のつけられないマジメ人間のときは、何だか自分の評判が悪そうだから、ガンバラなくてはと一層マジメになるので、③悪循環が生じてしまう。

欧米人、特にアメリカ人とつき合っていると、冗談が好きなことに驚いてしまう。また逆に、彼らから言わせると、日本人はユーモアのセンスがない、ということの評判が悪い。今後、日本人も国際性をそなえていかねばならないが、④この点についても考えてみる必要があるようだ。【A】

以前、<sup>注1</sup>ウォーター・ゲート事件の国会での証人⑤カンモンの際の実況中継を見ていて驚いたことがある。盗聴をしていた人間に対して、電話の受話器がその場に持ちこまれ、それを使って実際にどのようなようにしていたかをやれ、と命令される。その人はやおら立って受話器のところに行き、実演する前に、⑥シンケンな顔をして議員たちに向かい、「⑦」とやって、一同の爆笑を誘うのである。【B】

もしこれと同様のことを日本の国会でやればどんなことになるだろう。「冗談も休み休み言え」どころか、国民から厳しい非難を浴びることになるだろう。「マジメにやれ」の大合唱が聞こえてくるに違いない。それでは、ウォーター・ゲート事件のアメリカにおける究明と、日本における、たとえば<sup>注2</sup>リクルート事件の究明を比較してみた場合、どちらが本当にシンケンにやったのか

という点になると、どうなってくるだろう。このような比較はそれほど簡単に出来ぬ点があるので速断はできないにしろ、冗談まじりのアメリカの方が究明が手ぬるいなどとは決して言えないことには、誰でも同意することであろう。【C】

アメリカでははげしく相手を<sup>⑧</sup>「コウゲキ」するかわりに、相手の言い分も十分に聞こうとする態度がある。それに対して、日本的マジメは、マジメの側が正しいと決まりきっていて、悪い方はただあやまるしかない。マジメな人は住んでいる世界を狭く限定して、そのなかでマジメにやっているのです。相手の世界にまで心を開いて対話してゆく余裕がないのである。これに対して、欧米人の場合は、自分がどんなに正しいと信じていても、相手の言い分を十分に聞かねばならないという態度がある。ぶつかりはげしくなるが相手に対して心をひらくだけの余裕があり、余裕のなからユーモアが生まれてくるのだ。【D】

マジメな人は自分の限定した世界のなかでは、絶対にマジメなので、確かにそれ以上のことを考える必要もないし、反省する必要もない。マジメな人の無反省さは、鈍感や<sup>⑨</sup>傲慢にさえ通じるところがある。自分の限定している世界を開いて他と通じること、自分の思いがけない世界が存在するのを認めること、これが怖くて仕方がないので、笑いのない世界に閉じこもる。笑いというものは、常に「開く」ことに通じるものである。【E】

「マジメも休み休み言え」、というときの<sup>⑩</sup>「休み」が大切なのである。休んでいる間に人間は何か他のことを考える。休みという余裕が、一本筋の自分の生き方以外に多くの他の筋があることを見せてくれるからである。こんなことを考えてくると、日本人がユーモア感覚に欠けると批判されることと、日本人が休みを取りたがらないということが深く関連していることがわかってくる。

「マジメ人間」の日本人が、休みなしにマジメにやるので、国際社会で嫌われものになりがちなのである。【F】

日本人もこんな点を反省して、この頃では大分休みをとるようになった。官公庁の土曜休日も決まったことだし、これはうれしいことである。ただ心配なのは、「マジメに休みをとれ」などということになって、せつかくの休日を「有意義」に過ごそうなどと考えすぎ、休日は増えたがマジメさは変わらない、などということになりそうに思えることである。⑪、マジメは休み休みにしていたきたい。

注1 ウォーター・ゲート事件・・・一九七二年にアメリカの民主党本部で起きた盗聴事件。

注2 リクルート事件・・・一九八九年にリクルート社が起こした汚職事件。

問一 傍線部①・⑤・⑥・⑧・⑨の片仮名は漢字に、漢字は平仮名に直しなさい。

問二 空欄部②に当てはまる最も適当な漢字一字を入れなさい。

問三 次の文は、本文中のどこに入るか。最も適当な場所を【A】～【F】から選び、記号で答えなさい。

この点についてもう少し突っこんで考えると、次のように言えるだろう。

問四 傍線部③「悪循環」とはどういうことか。文中の言葉を使って、三十字以内で説明しなさい。(句読点は字数に入れません。)

問五 傍線部④「この点」とは何を指しているか。文中の言葉を使って、二十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問六 空欄部⑦に最もよく当てはまる文を次から選び、記号で答えなさい。

ア 電話の受話器の使い方がわかりませんね。

イ どんな方法で盗聴していたんでしょうね。

ウ まさか、これは盗聴されていないのでしょうか。

エ 今日は、仕事を休んでもいいのでしょうか。

オ もっときちんと実況放送をすべきでしょう。

問七 傍線部⑩「休み」が大切なのである」とあるが、その理由を表している最も適当な一文を抜き出し、その最初の五字を書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問八 空欄部⑪に当てはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア もつとも      イ しばらく      ウ たまに      エ ともかく      オ とうてい

問九 本文の内容と一致しないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア マジメな日本人は、自分の世界に閉じこもり、絶対にマジメな生き方をしている。
- イ アメリカ人は、相手をコウゲキもするが、言い分を十分に聞く余裕がある。
- ウ マジメは「休み休み」にして心を開くと多くの他の世界が見えてくる。
- エ ユーモアを大切にする欧米人にはマジメな生き方をする日本人は評判が悪い。
- オ 休みを取りたがらない欧米人は、「休み」を取るようにならなければならない。

二 次の文章は、一九七八年に出版された、洋画家野見山暁治のみやまぎょうじの『四百字のデッサン』という随筆集に収められた「法隆寺の壁」と題された文章です。よく読んで後の問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

こんな名前を憶おぼえている人はもう少ないだろう。老人が自分から「和田」だと名乗ったとき、私もハテなど思ったものだ。それも今から四十年ちかい昔の話だから、何といっても古い名前だ。

法隆寺に向かっているバスのなかは混雑していた。当時、法隆寺の壁画がいずれは色あせて朽ちてゆくであろうと憂えた文部省が、今のうちにと偉い画家たちを呼んで、その①模写に当らせていた。そのために一般の人々が入ることが出来ない。おそらくこうして訪ねていっても②ムダだろうが、ともかく私はその壁画を見たかった。私の横でいきなり大きな声が出た。年寄りが立っているのに、③いい若者がけしからん。中学生みたいな男の子が二人、私のまへの座席に腰かけていたが、その大声にきまり悪くなり、泣き出すような顔をして立ちあがった。どなった爺じいが座るのかと見ていたら、その向うがわに立っていたお婆さんの手をとって、このいかつい爺は、その座席に座らせた。少し大声を出しすぎたと思ったのか、茶色っぽい筒袖にモンペをはいた大きな爺は息をはき出して目を横に向けた。横にいる私をじつと見据える。私はいいい若者だが、こうして立っているのだから叱られることはないだろう。キミは上野か。爺がいきなり私に言った。上野とは美術学校のことなのかな。私は当時のきまりである学生服に、美校の④注1 徽章きしょうのついた学生帽をかぶっていた。爺は気弱く返事をした私を見つめていたが、懐かしいなあと言った。④ワシは和田だよ。

和田英作は我が国の西洋画の草分けとして、私は中学生のころからその作品は印刷で見っていたし、画壇の長老として美術学校の校長であったことも聞かされていた。そうして壁画の模写に和田英作が加わっていることも聞き知っていた。⑤これは願ってもない機会に恵まれたものだ。センセイ、法隆寺の壁画を見せて下さい。文部省は模写を日本画家にかぎって注2 委嘱したのだが、この壁画の注3 マチエールは油絵具に依よる方がよいと主張して譲らなかつた頑固爺の返事はかんたんだった。⑥あれは一般の人には見せない事になっている。——やはり和田英作は、自分ひとりで文部省にねじこみ自分の好きな壁画のまゝに腰をすえて、自分の費用で模写するのだと意地張っている頑固者だった。バスが法隆寺に着くまで老人と私は口をきかなかつた。

少し雨が降りだしていた。桜がおわった季節だ。砂利があたたかく濡れている。バスの中であんなことを言っではいけない、<sup>⑦</sup>境内にむかつて歩きながら老人はそう言った。今日は一日中ゆっくり見なさい。そうして、本堂に入ろうとするとき、入口にいた若い坊さんに、私の昼の用意までも頼んでくれた。

その日は他に模写をする画家はいなくて、私と老先生とだけだった。その壁は焼けおちて今は伝説のなかに閉じこめられ、和田英作という名前も、もう歴史的にしか残っていないが、壁に向かったその一日の緊張した長さを年とともに私はかえって切なく想い出す。模写をしようという目で壁を見ると、絵はもう無限に拡がって、そこに一人の人間が挑むということが空おそろしいくらいにちっぽけに見えた。老人は一日中うずくまっていたが、その進展は、肉眼では捉ま<sup>つか</sup>えられないくらい無為の動作にちかひ。天井にしつらえられた電灯の光りがふるえながら、<sup>注4</sup>永劫の浄土世界を写し出して、老人はその隅<sup>すみ</sup>ついで時間の流れのままに我が身が朽ちてゆくのを待っているようにみえた。<sup>注5</sup>日本画の顔料ではこの厚みは出せない。老人はそんな憎まれ口をたたいてみせたが、毎日この壁に向かえるだけで稀有<sup>けう</sup>な有難さだ、とも言った。声は堂内で妙にこもり、ゆっくりしたテンポで今もなお私の耳に残っている。本当に有難いのだろうか。もの言わぬ<sup>注6</sup>弥陀<sup>みだ</sup>の重さに立ちむかつて人間は日がな一日、来る日も来る日も動かずに見つめ続けると、人間関係の確執や闘争やこの世の生きがいのような気負<sup>きお</sup>いたちは、かき消えてしまうだろう。四面かこまれたこの空間は牢獄<sup>ろうごく</sup>ではないか。外界を遮断したここだけの闇が、現世にはない未来をどう写し出してみせても、<sup>⑧</sup>私はこの老人のような有難さも、まして憎しみも持ち得ない。今日は誰もいないが、他の壁を模写している日本画家とその顔料とをたえず横目でにらみ、憎しみをもちつづけないと、ここにうずくまっている事はできないのではないか。こうして壁に向かっていると自分の絵に固執することはつまらないものだと、私の肩をだいて老人は言った。そうは言うものの実は魅惑的で<sup>⑨</sup>ソウゴンな線描の女体に自分を<sup>⑩</sup>マイボツさせる余生を、老人はひそかに選んだのかもしれない。しかし命あるかぎりの日々を、ただそれだけで充足できてもないだろう。あるいはコトの成りゆき上、この人はもう取りかえしのつかない意地<sup>あぢ</sup>だけでこの大画面の上を蟻<sup>あり</sup>のようにはいまわっているのかも知れない。

一日はこうして暮れた。四面の壁にくり広げられた寂滅の世界のつい外側で、樹々が柔らかに雨にうたれ、夜が昼にとつて替わ

ろうとする静かな刻ときがよこたわっていることに私は放心したような⑪をおぼえた。高いところから雨は落ちてきていた。松の梢こずえも高かった。茶店まで私たちはやってきたが店先に人の気配はなく、二人はその縁台に腰をおろしてバスを待つことにした。婆さん居るかな。ついと老人は店の奥へ入っていった。わたしだよ。そうしているうちに、おろおろと泣く声が奥の方から聞こえてきた。淋さびしいだろう淋しいだろうと言う先生の涙声に、泣きじゃくっている肥ふとった老女の姿があらわれた。どうやらこの老女のつれあいが亡くなって未だそう日が経っていないという事らしい。老女にとってそれは悲しいことに違いない。しかし彼女以外の人にとっては同じくらい悲しいことではないだろう。しかし先生は相手の肩に手をあてて、なりふり構わず涙を垂らしているのだ。縁台に座ったまま二人を眺めているうちにバスがやって来た。

先生とは郡山の駅で別れた。先生はその近くに宿をとって、そこから法隆寺に通っているという事だった。吹きさらしの駅のホームは雨が降っていて、⑫汽車が出るまで先生は濡れながら立ったままだった。汽車が走りだして間もなく日が暮れた。

〔四百字のデッサン〕野見山暁治

注1 徽章・・・身分、職業などを示すために衣服や帽子につけるしるし。バッジ。

注2 委嘱・・・特定の仕事を人に任せ、頼むこと。注3 マチエール・・・絵の表面の肌合いのこと。

注4 永劫の浄土世界・・・永遠の極楽浄土。注5 顔料・・・絵の具。

注6 弥陀・・・極楽にいて一切の命あるものを救うという誓いを立てた阿弥陀仏の略。

問一 傍線部①・②・⑦・⑨・⑩の片仮名は漢字に、漢字は平仮名に直しなさい。

問二 傍線部③「いい」と同じ意味で使われている「いい」を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 午後のほうが都合がいい。イ 人助けはいいことだ。ウ いい年をして何ですか。

エ 早寝早起きは健康にいい。オ 失敗が いい 薬になる。

問三 傍線部④「ワシは和田だよ。」と「私」に言った、「和田英作」の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分のことを知らない上野の美術学校の生徒に名前を教えて、顔を覚えさせたいと思っている。

イ 上野の美術学校の生徒でありながら、力強く返事のできない「私」にひどく腹を立てている。

ウ 初めて会った上野の美術学校の気弱な生徒に自分から名前を名乗ることで励まそうとしている。

エ 上野の美術学校の生徒ならば、校長だった自分の名前をきくと知っているだろうと思っている。

オ 上野の美術学校の生徒に名前を名乗ることで、自分の権威をひけらかそうと思っている。

問四 傍線部⑤「これは願ってもない機会に恵まれたものだ。」とあるが、この時の「私」の思いの具体的な内容を四十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問五 傍線部⑥「あれは一般の人には見せない事になっている。」と「和田英作」は答えたが、本当はどう思っていたのか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 上野の美術学校の生徒であるのならば壁画を見せてやりたいが、一般の人には見せないことになっているので、多くの乗客がいる前で頼まれても、見せるとは言えないと思っている。

イ たとえ、懐かしい上野の美術学校の生徒であっても、規則で一般の人には見せないことになっている以上、いくら頼まれても、特別扱いをして見せるわけにはいかないと思っている。

ウ 自分は文部省に無理を言って模写の許可を手に入れたが、規則で一般の人には見せないことになっており、自分のような特別な人間だけが壁画を見ることができると思っている。

エ 一般の人には見せないことになっている壁画をぜひ見たいとバスの中で言い出す「私」の無神経さにあきれ、そのような人間には壁画を見せることは絶対にできないと思っている。



問六 傍線部⑧「私はこの老人のような有難さも、まして憎しみも持ち得ない。」とあるが、この部分の「有難さ」と「憎しみ」を

表している「老人」の言葉を、それぞれ十五字以上二十字以内で抜き出しなさい。(句読点は字数に入れませぬ。)

問七 空欄部⑩に入る最も適当な語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 高揚感    イ 焦燥感    ウ 挫折感    エ 倦怠感けんたい    オ 安堵感あんど

問八 傍線部⑫「汽車が出るまで先生は濡れながら立ったままだった。」とあるが、「先生」は何のために雨の中に立っていたのかを、十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問九 「和田英作」という人物の説明として適当なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の絵を完成させることにだけ価値を見出している人。

イ 人の悲しみを自分のこととしてとらえることのできる人。

ウ いくら素晴らしくても自分以外の画家の絵を認めない人。

エ 美しい壁画に心を奪われ、他人との関わりを拒否する人。

オ 自分が正しいと信じたことをひるまないでやり遂げる人。

カ プライドが高く、自分の業績を自慢することしかない人。

このページには問題はありません

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

古文

これも今はむかし、丹波国篠村といふところに、年ごろ平茸ひらたけやるかたもなくおほかりけり。里村の者これをとりに人にもこころざし、またわれも食ひなどして年ごろ過ぐるほどに、その里にとりてむねとある者の夢に、かしらおつかみなる法師どもの二三十人ばかりいで来て、「申すべき事。」言ひければ、「いかなる人ぞ。」と①問ふに、「この法師ばらはこの年ごろも宮づかへよくして候ひつるが、この里の縁つきていまはよそへまかり候ひなんずることの、かつは②あはれに、もしまた③ことよの由を申さではと思ひて、この由を申すなり。」と言ふとみて、うちおどろきて、「こは何事ぞ。」と妻や子やなどに語るほどに、またその里の人の夢にもこの定に見えたりとて、あまた同様に語れば、心も得えで年も暮れぬ。

さて次の年の④九月、十月にもなりぬるに、さきさき出で来るほどなれば、山に入りて茸をもとむるに、⑤おほかた見えず。「いかなる事にか。」と里国の者思ひて過ぐるほどに、故仲胤僧都ちゅういんとて⑥説法ならびなき人いましけり。この事を聞きて、「こはいかに。『不浄説法する法師平茸に生まる。』といふことのある物を。」とのたまひてけり。

『宇治拾遺物語』

## 現代語訳

これも今は昔、丹波国の篠村という所で、長年平茸が途方もなく生えたことがあった。里の人はこれを探り、人に分けたり、自分も食べたりなどして数年が過ぎていた頃、その里の長が夢で、ぼさぼさ頭の法師が二、三十人ほど現れて、「お伝えしたいことがあります。」と言ったので、「いったいどなたか」とたずねると、「私達は、数年にわたってさるお方に仕えてきましたが、このほど、この里との縁が切れてよそへ行くことになりました。お名残惜しいこともあり、このことを伝えなければなるまいと思って、それを話に来ました。」と言ったと見て、目が覚め、「どういふことだろう」と妻や子供と話し合っていたら、多くの他の里の人も同じような夢を見たとのことで、分らないうちに、その年は暮れて行った。

そして翌年の九月、十月になり、毎年平茸が生える時期を迎えたので、里の人が山へ入って平茸を探したが、少しも生えていない。「これはどういふことだろう」と里の人たちが不思議に思っている所へ、今は亡き仲胤僧都という  がいらっしやった。この人がこの話を聞いて、「これは何としたことだ。昔から『けがれた説法をする法師が平茸に生まれ変わる』と言うのではないか」とおっしゃったとか。

問一 傍線部①「問ふ」の主語は誰か。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 里村の者    イ その里にとりてむねとある者    ウ かしらおつかみなる法師ども    エ 故仲胤僧都

問二 傍線部②「あはれ」を現代仮名遣いに改めて、すべて平仮名で書きなさい。

問三 傍線部③「ことの由」とあるが、どういふことか。 **現代語訳** 中から十七字で抜き出しなさい。(句読点は字数に入れません。)

問四 傍線部④「九月、十月」について、それぞれの月の異名の組み合わせとして適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 九月…霜月    十月…神無月    イ 九月…長月    十月…水無月  
ウ 九月…長月    十月…神無月    エ 九月…葉月    十月…文月

問五 傍線部⑤「おほかた見えず」について、「平茸を探したが、少しも生えていない」のはなぜか。最も適当なものを次の中から  
選び、記号で答えなさい。

ア 夢に出てきた、平茸に生まれ変わるはずの二、三十人の法師が、丹波国の篠村に留まってしまったから。  
イ 丹波国の篠村にいた二、三十人の法師が、夢のお告げに逆らって平茸を根こそぎ取ってしまったから。

ウ 丹波国の篠村にいた二、三十人の法師が、夢のお告げに従って平茸をほとんど隠してしまったから。

エ 夢に出てきた、平茸に生まれ変わるはずの二、三十人の法師が、丹波国の篠村から離れてしまったから。

問六 傍線部⑥「説法ならびなき人」の現代語訳として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 説法があまり上手でない人

イ 説法を聞くといつも泣いてしまう人

ウ 説法をする機会にめぐまれない人

エ 説法が誰よりも上手な人